

# きぼうのいえ ニュースレター



## 2017年 夏号

特定非営利活動法人 きぼうのいえ  
〒111-0022 東京都台東区清川2丁目29番12号

電話：03-3875-7523 Fax：03-3875-7525  
E-Mail：kibounoie777@mbm.nifty.com  
ホームページ：http://www.kibounoie.info

### << ご報告 >>

- 以下の通り役員の交代がありました。(五十音順)  
下条裕章(理事長)、藤堂千浪(理事/事務局長)、中川竜(理事/施設長)、山本雅基(理事/顧問)、渡辺義明(副理事長)
- 遺贈寄付をいただき、きぼうのいえ設立に伴う借金を全額返済する事が出来ました。ここに感謝とともに、お知らせいたします。
- 誠に勝手ながらみずほ銀行 本所支店(山谷・すみだ支援機構)の口座を閉鎖致しました。  
長年にわたりご寄付の振り込みをしてくださった方々には、この場を借りて厚くお礼申し上げます。

## 万引き常習者 F君の最期の巻

顧問 山本 雅基

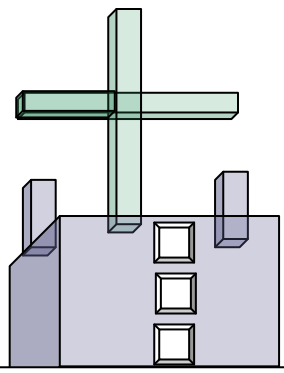
F君は享年48歳。頭はスキンヘッドで、顔色はことさら良い人物でした。

彼の常習癖は万引き。前科20犯以上で、特にコンビニで目立つものがあると、いてもたってもいられず拝借してしまうのです。微罪なのですが、積み重なると累犯扱いとなり、刑務所行きとあいなりました。収監先は府中刑務所。実刑が降りてから体調の不調を訴え、精査の結果、末期の中喉頭がんと診断され、同じ敷地の医療刑務所に入院となりました。やがて刑の満期が訪れ出所の準備となりますが、受け入れ先が見つからないのです。余命に限りのある元受刑者を引き受けてくれる施設は皆無といった状態でした。都内のありとあらゆる施設を探したソーシャルワーカーがやっと見つけたのが、ここ「きぼうのいえ」。ここなら終末期を迎えても家族的な雰囲気の中で、完全個室で過ごすことができる。そんな理由から罪びとの最期の安住の地としてここが選ばれたのでした。

収監が過ぎ出所となり、F君は民間の救急車をチャーターしてきぼうのいえにやってきました。ただ、末期にもかかわらず治らなかつたのが盗癖。近くのコンビニに、周囲の目を盗んで出かけては、万引きを繰り返していたのでした。コンビニで現行犯で捕まること4回。次に見つかったら絶対に警察に突き出すことを条件に釈放されてきました。

ところがです。これがやってしまったのです。5回目を……。盗品はチョコレートと仏花。まったく仕方のない人ですが、盗癖というのは一種の病気で、本人の抑えが利かないのが特徴なのです。

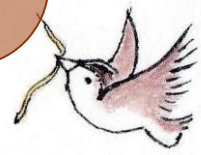
彼は5回目の盗癖の成功に満足したのか、ボランティアの女性と歓談を楽しんだ後、冬も近づいていたので、入浴をしたくなつたのか、同じく以前に成功していた窃盗品のワンカップを3本飲んで、自分で入浴を図りました。適温になり、衣服を脱いで介助なく入浴しました。病は末期中の末期。弱まっていたF君の心臓は、安心感と適温に促されて「心不全」を起こし、停止してしまいました。主のいなくなった部屋を訪室したくだんのボランティアの女性は胸騒ぎがして浴室に行ってみると、F君がうつ伏せになり呼吸も止まっていました。すぐに担当医が呼ばれ、往診したところ、「自然死」と判断され、「事件性のない事案」として死亡診断書が書かれて一件落着となりました。訪問看護師のSさんは「これぞみごとなセルフ湯灌(地方によって違いますが、亡くなった人をお湯につけて洗ってあげる習慣があります。)」と言って、泣き笑い。僕たちも、最期の最期にご自分を自分で清めて死後の世界に旅立ったF君の冥福を心から祈ることができました。命の摂理の見事さに打たれた一件でした。



クリスマスの朝のこと。ツリーやリースで飾り付けをした廊下にてIさんと挨拶。おはようございますと声をかける私に、「あれ、ほれ、なんだっけ?」とIさん。一生懸命にかを思い出そうとしている。「ほれ、今日の、言葉なんだっけ?」  
 なんのことだろうと首を傾げる私に、業を煮やしたIさんは「ほれ、これよ、これ!」と胸で十字を切って見せた。「もしかして、メリークリスマス?」「そうそう!それぞれ!」—やっとすっきりしたIさん、満面の笑みで「メリークリスマス!」



### 雀



Yさんが、玄関で言った。「見てごらん、スズメが巣を作ってるんだ」  
 向かいの電信柱のてっぺんをスズメが出入りしていた。巣のようなものを運んでいる。Yさんによると、去年も同じ場所に巣作りをしていたらしい。しばらくの間、ふたりでそれを見上げていた。

### がんで死ぬのと火にまかれて死ぬのはちがう

私は、真剣に訓練に取り組みようすを見ながら、Tさんの水戸黄門のような笑いと、あくまでも静かに死んでゆきたいという強い願いを思い出していました。

### 苔

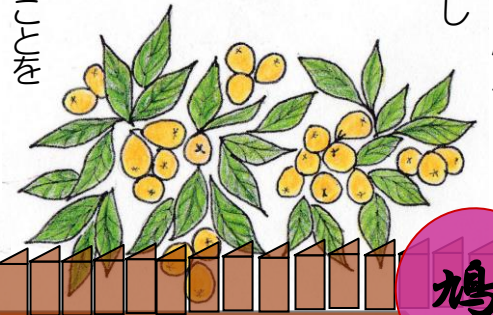
をずーっとじーっと見ていると、森の中にいるみたいなおもしろい。つい最近まで、苔はあるんだかないんだかわからないものだったのだが。昨年の春、京都の苔寺を歩いていたら、苔の若芽が萌え出ていて地面全体がピカピカと光っているようだった。その美しさに感動して以来、道ばたに苔を探す癖がついてしまった。

きぼうのいえの玄関脇にもゼニゴケがひっそりと、しかしたくましく生えている。庭いじりが好きな人は、ゼニゴケを嫌うらしい。むしってもむしってもきりがいいからである。葉の上にあるカップのようなものが地面に落ちると、そこからクローンのように増殖するのだそうだ。とにかく生命力がある。きぼうのいえの園芸部長 IM 氏にこのことを話すと「いーんじゃないの?」と言ってくれた。私がいあまり熱心に見ていたからかもしれない。

地面に顔を近づけてゼニゴケを眺めていると、自分の目がどんどん接写レンズになっていくような気がする。胞子をつけた雌株は、まるでココナッツを实らせた椰子の木である。雄株は一段低いところで、花型のビスケットを散りばめたようだ。そこをダンゴムシがのっそりと歩いて行く。アリがせわしく登り降りする。ダニがくっついている。そんな光景の中にいると、いつの間にか私もゼニゴケの森の住人になっているのである。

### ビワの実パーティー

きぼうのいえの玄関先に座っている、1近所の屋根と物干しの隙間から、ビワの木が顔を出しているのが見える。時期になるとたわわに実をつけるのだが、一向に穫って食べている気配がない。Sさんと「たわも穫らなうね」「不味いかな」「あー、かっこないよ」言っていた。  
 そんなある日、平穩をよびつて「ビワの木の大群がやってきた。ほんの数時間のうちにビワは食べ尽くされ、あとは緑の葉だけが残された。残されたのは葉っぱだけではない。  
 きぼうのいえの玄関先には大量の鳥の糞でうめびつた。J1色の糞に染まった道路をみな「うん、うん」と啾然としたのだ。



### 鳩

夜勤のとき、玄関の外から、猫が一匹こちらを見ていた。白に黒ぶちで細身の、なかなかの美猫である。私と目が合っても動こうとしない。餌がほしいというわけでもなさそう。どうやらボス猫の夜回りらしい。…だとすると、この猫は雄?昼間にその猫を見かけたとき、確かめてやろうと股の間をのぞきこんで、近所のおじさんたちに笑われた。そして、雄猫だと教えられた。  
 その後、夜中にその猫がうちの前で立ち止まるのを何度も見かけたが、そのたびにきぼうのいえが見守られているような、頼もしい心地がするのだった。

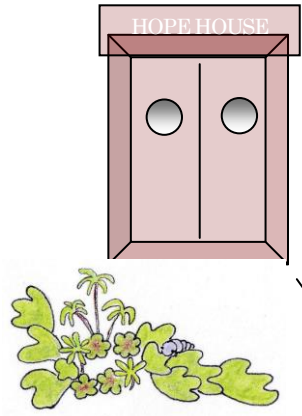
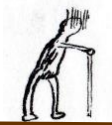
### Bさんの(アン)ラッキー

Bさんが散歩中に1万円を拾ったらしい。ニヤニヤして何も教えてくれないので、すわドロボーでもしたか?と余計な心配をしてみたが、地元出身のヘルパーさんによれば、「山谷ではサイフを持たない人が多くて、保護費が出ると裸でポケットに入れる人が多いから、支給日にはよく万札が落ちてるのよ」とのこと。

そんなラッキーなBさんが別の日に散歩に出たところ、これまた別の同行したヘルパーさんによれば、「Bさん、杖でハトをイジメてたわよ!」—しかし、話のオチはそこではなかった。「飛び立ったハトがBさんに糞をかけて…」

Bさん、ラッキーなのかアンラッキーなのか。

### 猫



## 尾瀬紀行

私は尾瀬には三度行っています。春、夏、秋と季節に依って風景やその湿原地帯のさま変っていく変化について私の感じたことを綴ってみたいと思います。

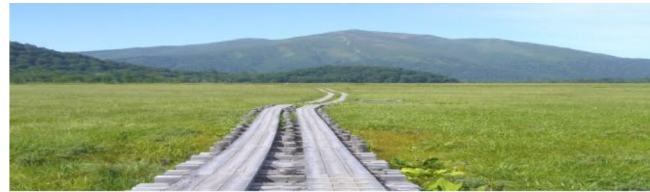
尾瀬国立公園は群馬、栃木、福島、新潟の4県にまたがったすばらしく美しいハイキングコースです。春先の5月に長倉小屋に一泊・二日の日程で行って来ました。先方からは山開きはまだしていきなく雪深く無理と云われましたが職場の同僚、男女12名で強行に行くことにしました。

その頃私は21才の若さで、埼玉県児玉郡神川村尾瀬というところの東芝の下請会社の(株)日本マイカという絶縁体を作っている会社の寮に入って3年目のところでした。鳩待峠の近くまで行くと積雪約60cmで尾瀬沼は全面氷結して尾瀬沼の真中の道を通り長倉小屋にたどり着いたら、私たちだけしか泊まらないのでとても歓迎されました。その日の夕方はハンゴウでごはんを炊いて、カレーライスと皆で作って早寝をし、次の日は午前7時に長倉小屋をあとにして峠道の雪道を超えて大清水に出ました。大清水ではちょうど山合いの谷間に水芭蕉の群生がきれいな白い花をいっぱい咲かせて素晴らしい景色でした。2日間とも天候にもめぐまれて、空の青さと雪の白さのコントラストがなんともいえない美しさでした。

## 鷲尾進

中学2年生のときの夏休みに、同級生と3人で大清水から長倉小屋に向かう道は両サイドが湿原で道の真ん中に長い板が3枚ずつ敷いてあって、その道を通って峠を越えて長倉小屋に向かうのですが、湿原はあちこちで湧水がわいていて透明でスイスイと真っ黒いイモリがいっぱい泳いでいてとてもかわいかったです。夕方長倉小屋に泊まり、次の日は新潟寄りの三条の滝というすばらしい爆水をながめて下の見晴し台で滝つぼの見渡せるところまで行って来て東電小屋のところを通って大清水を抜けて帰ってきました。尾瀬ヶ原では水芭蕉の群生が咲き乱れてとてもきれいで美しかったです。

高校生のときは秋に大清水から大清水にかえってくるコースで行って来て、尾瀬沼のまわりの大草原はどこを向いてもオレンジ色の日光キスゲ(ユリの仲間的一种)の群生を見てきました。高崎からの交通費は電車・バス代のみで当時片道千円、往復二千円でしたが、現在でも三千円ぐらいで行って来られると思います。春は春、夏は夏、秋は秋の素晴らしい湿原と色とりどりの高原の花が見られる素晴らしいところです。



■きぼうのいえでは、私どもの活動にご賛同頂ける皆様方に、ご支援・ご寄付をお願いしています。

振り込み方法は、①郵便振替 ②銀行振込 ③インターネット募金 の3つがあります。

きぼうのいえの運営へのご協力を、どうぞよろしくお願い申し上げます。

なお、ハートウエアタウン山谷実行委員会とは別団体ですのでご了承ください。



### ① 郵便振替の場合

郵便振替番号:

00190-6-388670

名義:きぼうのいえ後援会

### ② 銀行振込の場合 (※1)

みずほ銀行 三輪支店 普通

口座番号:1284037

名義:特定非営利活動法人きぼうのいえ

### ③ インターネット募金

ホームページからアクセスして、カード決済することもできます。

<http://www.kibounoie.info/index.html>

● ※1: 銀行振込の方で領収書が必要な方はメール等で連絡先をお知らせ下さい。

● 正会員希望の方は、お手数ですが事務局までご一報下さい。